

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 23 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25350756

研究課題名(和文) 運動会(体育祭)による学校づくりカリキュラムの検討

研究課題名(英文) Examination of the curriculum developed from the athletic meeting (sports festival)

研究代表者

藤谷 かおる (Fujitani, Kaoru)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：60257079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、(1)「地域」「企業」及び「学校」運動会の成果とサービス評価をアンケート調査で比較し、(2)学校運動会の実践カリキュラムの課題を検討することである。(1)運動会では、学校の成果(協力意識、役割や責任、まとまり感)が最も高く、なかでも小学校が他校種に比べ、「周りや皆との協力」意識などが高い結果を示した。また、サービス評価の結果から、参加者は意見や要望を聞き改善すること、安全を求めていることが明らかとなった。(2)学校運動会では、事後の「運動会サービス評価アンケート(16項目)」を活動の内容に加え、カリキュラムを組み立てることを提案した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to examine the service quality from the results of the “Community,” “company,” and “school” athletic meeting questionnaire surveys and to consider the problems associated with the school athletic meeting practice curriculum. It was found that “cooperation awareness, role and responsibility, and a feeling of unity” were strongly felt. Further, when commenting on the athletic meeting, an elementary school ranked “cooperation with everybody” higher than other schools. The results related to service quality revealed that security needed to be improved for those who wanted to voice an opinion or a request. (2) From this research, we propose to build a curriculum by adding the questions from the “Athletic meeting service quality questionnaire (16 items)” to the contents of the school sports festival activities.

研究分野：スポーツ経営学

キーワード：学校運動会 地域運動会 企業運動会 サービス品質

### 1. 研究開始当初の背景

運動会(体育祭)は、幼稚園から高等学校、地域社会、企業、民間団体の様々な場で幅広く実践され、多様な形態や内容を含みつつも、伝統的行事として定着してきた。企業は、運動会やスポーツ大会などを復活させる動きが相次いでいる(Nikkei Business, 2006)。一方、明治以降、学校中心の地域包括型行事として発展してきた地域運動会は、地域の結びつきが弱まる昨今、縮小化傾向にある。このような中、学校の運動会は、「恒例行事」から各地で「学校独自の種目」を見直し、「魅力ある運動会(体育祭)」への気運が高まりつつある。

イベントには、人と人を繋ぎ、新たな意識を芽生えさせる効果がある。イベントは終わった段階(最終製品)で、その価値、すなわち満足度が評価され、それは組織の変革や社会変革までも促すエネルギーとなる。これまで運動会は、様々な領域で事例研究は見られるものの、その実態と関連性については明らかにされていない。

### 2. 研究の目的

本研究では、全国調査未実施の(1)「地域」「企業」及び「学校」運動会の実態〔開催時期・意味(目標)・成果など〕を明らかにした上で、(2)サービス品質の観点からそれぞれの領域の改善戦略を提示し、(3)学校運動会の実践カリキュラム上の課題を検討することである。

### 3. 研究の方法

(1)対象：児童(小学生 156名)、生徒(中学生 125名、高校生 156名の計 437名)、地域住民：168名、会社員 167名の総計 772名

(2)日時：2017年3月

(3)方法：インターネット調査

(4)調査内容：

属性：性別、年齢、開催地、開催時期、役割、愛着など

運動会とは、「多くの人々が集まって行う単発的・総合的な(競技・レクリエーション・発表的な内容を含む)プログラム」と定義する。したがって、球技大会などの種目別競技会のような「単独プログラム」は除外する。

質問項目：運動会の意義、参加への積極性、実施種目(独自種目や好嫌種目)、楽しさなど

運動会の成果

質問項目：協力的・連帯感・自発性・責任感・地域参加・集団改善と追加項目(技能や体力の高まり・社会的態度・伝統の継承)の計 10項目。

サービス品質：運動会の達成度(30項目)と運動会の重要度(30項目)は、スポーツイベントのサービス品質 7次元 21項目「適格性(プログラムの内容・数)」

「顧客理解(意見要望の反映)」「接容易性(適切な開催日・時間)」に加え、教員の意見により 9項目を追加した。

(5)分析方法： は単純集計、成果は 1~4の得点を与え数量化を行い、一元配置分散分析をした。 サービス品質は、サービス属性に対する期待度とパフォーマンス評価に、1~5の得点を与え数量化を行い、SQ値(サービス品質 SQ=達成度-重要度)を用いて因子分析(主因子法、ノーマルバリマックス回転)を行った。サービスの維持・向上に関する対策を立てるためにサービス品質空間モデルによる分析を行った。

### 4. 研究成果

(1)運動会の実態

表 1 は属性及び運動会の実態を示す。

時期と日程(全体)：9~10月(414名：53.6%)と5~6月(248名：32.1%)の休日1日(494名：64.0%)が最も多く、見る側にも配慮された日時となっている。種目：「リレー」「徒競走」の走競技及び「ダンス」は好きな種目と嫌いな種目の上位を占めている。また、独自種目を持つ運動会は、全体の 221名(28.6%)であった。そのうち「学校」は 151名(19.6%)、「地域」の 37名(4.8%)と「企業」の 33名(4.3%)となり( $\chi^2=17.52$ ,  $p<0.05$ )、学校での工夫が見られた。

表 1 属性及び運動会の実態

| 性別 | 「学校」      | 「地域」      | 「企業」      | 計         |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 男性 | 164(21.2) | 102(13.2) | 120(15.5) | 386(50.0) |
| 女性 | 273(35.4) | 66(8.5)   | 47(6.1)   | 386(50.0) |
| 計  | 437(56.6) | 168(21.8) | 167(21.6) | 772(100)  |

| 開催時期     | 「学校」      | 「地域」      | 「企業」      | 計         |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 春(5-6月)  | 178(40.7) | 29(17.3)  | 41(24.6)  | 248(32.1) |
| 秋(9-10月) | 232(53.1) | 104(61.9) | 78(46.7)  | 414(53.6) |
| その他      | 27(6.2)   | 35(20.8)  | 48(28.7)  | 110(14.3) |
|          | 437(56.6) | 168(21.8) | 167(21.6) | 772(100)  |

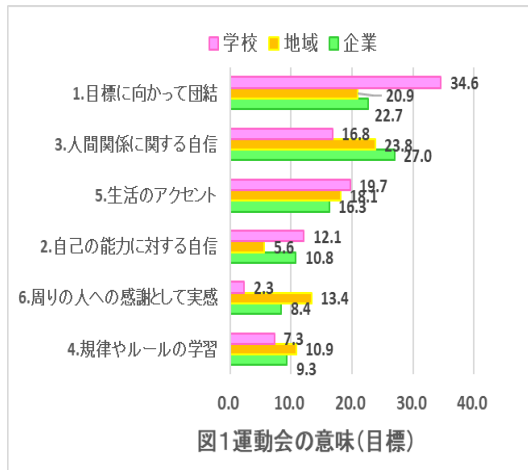
| 好きな種目 | 「学校」 小学校 中学校 高校 「地域」 「企業」 |      |      |     |      |      |
|-------|---------------------------|------|------|-----|------|------|
|       | 「学校」                      | 小学校  | 中学校  | 高校  | 「地域」 | 「企業」 |
| 1位    | リレー                       | リレー  | リレー  | リレー | リレー  | リレー  |
| 2位    | 徒競走                       | ダンス  | 徒競走  | ダンス | 徒競走  | 綱引き  |
| 3位    | ダンス                       | 陸上競技 | 陸上競技 | 徒競走 | 綱引き  | 徒競走  |
|       |                           |      |      |     |      | 応援合戦 |

| 嫌いな種目 | 「学校」 小学校 中学校 高校 「地域」 「企業」 |     |            |     |      |            |
|-------|---------------------------|-----|------------|-----|------|------------|
|       | 「学校」                      | 小学校 | 中学校        | 高校  | 「地域」 | 「企業」       |
| 1位    | 徒競走                       | 徒競走 | 徒競走        | 徒競走 | 徒競走  | 徒競走        |
| 2位    | リレー                       | リレー | リレー        | ダンス | リレー  | ダンス        |
| 3位    | ダンス                       | ダンス | 民謡・フォークソング | ムカデ | ダンス  | 民謡・フォークソング |

| 独自種目 | 「学校」 小学校 中学校 高校 「地域」 「企業」 |           |          |           |           |           |
|------|---------------------------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|
|      | 「学校」                      | 小学校       | 中学校      | 高校        | 「地域」      | 「企業」      |
| あり   | 151(19.6)                 | 56(7.3)   | 40(5.2)  | 55(7.1)   | 37(4.8)   | 33(4.3)   |
| なし   | 286(37.0)                 | 100(12.9) | 85(11.0) | 101(13.1) | 131(17.0) | 134(17.3) |

$\chi^2=17.52(p<0.05)$

意味(目標): 図1より、「学校」での運動会の意味(目標)は「目標に向かっての団結」で290名(34.6%)、「地域」と「企業」では「人間関係に対する自信」で「地域」が76名(23.8%)、「企業」は50名(27.0%)であった。運動会の楽しさは「学校(85.8%)」、「地域(84.5%)」、「企業(77.2%)」の順に高い結果( $\chi^2=30.142, p<0.05$ )を示した。



### (2)運動会の成果

表2は領域別の運動会の成果を示している。「学校」は「(2)皆との協力」「(10)以前よりまとまった」「(6)役割や責任を果たす」「(4)自ら考える組織の向上」を成果としている。一方、「地域」と「企業」は「(9)地域や家族などの周りの協力」を成果として挙げる傾向を示した。

表2 領域別運動会の成果

| 成果         |    | 分散分析 |      | 多重比較   |    |
|------------|----|------|------|--------|----|
|            |    | M    | SD   | F値     | p値 |
| (2)皆との協力   | 学校 | 3.33 | 0.80 | 20.43* | <  |
|            | 地域 | 3.05 | 0.72 |        |    |
|            | 企業 | 2.92 | 0.79 |        |    |
| (4)組織の向上   | 学校 | 3.16 | 0.87 | 11.26* | <  |
|            | 地域 | 2.86 | 0.78 |        |    |
|            | 企業 | 2.89 | 0.78 |        |    |
| (5)技能や体力向上 | 学校 | 2.97 | 0.90 | 23.51* | <  |
|            | 地域 | 2.49 | 0.83 |        |    |
|            | 企業 | 2.59 | 0.85 |        |    |
| (6)役割・責任   | 学校 | 3.15 | 0.86 | 20.13* | <  |
|            | 地域 | 2.74 | 0.87 |        |    |
|            | 企業 | 2.79 | 0.78 |        |    |
| (8)伝統      | 学校 | 2.82 | 0.92 | 3.98*  | <  |
|            | 地域 | 2.81 | 0.77 |        |    |
|            | 企業 | 2.60 | 0.79 |        |    |
| (9)周りの協力   | 学校 | 2.93 | 0.95 | 0.25   | <  |
|            | 地域 | 2.98 | 0.81 |        |    |
|            | 企業 | 2.97 | 0.80 |        |    |
| (10)まとまり   | 学校 | 3.20 | 0.85 | 17.23* | <  |
|            | 地域 | 2.86 | 0.73 |        |    |
|            | 企業 | 2.84 | 0.80 |        |    |

\*:  $p<0.05$

### (3)サービス品質のデータ分析

サービス品質の代表的な測定尺度として、SERVQUAL(Parasuraman et al.1985)がある。現在、5次元(「有形性」「信頼性」「応答性」「確実性」「共感性」)22項目がモデルとして提示されている。学校教育などの無体財を含む製品を対象とする研究も進められている。学校教育でのサービスは、年度が高まるにつれて提供される製品が変化することは通常であり、教育内容も段階的に高度になり、児童生徒のニーズに応じて製品を変化させているのが現状である。したがって、児童生徒は、何年かの教育サービスをパッケージとして認識し、途中で何度か製品の重要な仕様に関して選択を行っている(山本、1999)。

サービス品質因子の構造(全体)  
本研究では、先行研究を参考に SERVQUALモデルの5次元に、スポーツ場面独自の「アクセス」「運営」「プログラム」に関する項目を加え、8次元30項目を設定した。サービス品質については、差異得点であるSQ値を用いて因子分析(主因子法、ノーマルバリマックス回転)を行った。表3は、運動会サービス品質因子の分析結果を示している。固有値1.0以上の因子を3つ抽出した。結果は、全分散の57.7%の説明率で、質問項目の信頼性も良好であった(クロンバック係数:0.745~0.826)。

### サービス品質因子の構造(全体)

本研究では、先行研究を参考に SERVQUALモデルの5次元に、スポーツ場面独自の「アクセス」「運営」「プログラム」に関する項目を加え、8次元30項目を設定した。

サービス品質については、差異得点であるSQ値を用いて因子分析(主因子法、ノーマルバリマックス回転)を行った。

表3は、運動会サービス品質因子の分析結果を示している。固有値1.0以上の因子を3つ抽出した。結果は、全分散の57.7%の説明率で、質問項目の信頼性も良好であった(クロンバック係数:0.745~0.826)。

第1因子6項目は、「共感性」の3項目、追加3項目からなり、参加者の要望や意見、安全性や登録に対する対応を含めていることから「応答性」因子と命名した。

表3 運動会サービス品質の因子パターン、因子間行列(3要因16項目)

| 要因名          | No.                          | 項目                             | F1     | F2     | F3     | 共通性   | $\alpha$ 係数 |
|--------------|------------------------------|--------------------------------|--------|--------|--------|-------|-------------|
| 応答性(F1)      | 16                           | 運動会に対する要望や意見は言いやすい             | 0.876  | 0.004  | -0.009 | 0.763 | 0.820       |
|              | 17                           | 運動会は、児童・生徒の要望や意見を聞き、改善している     | 0.801  | 0.081  | -0.057 | 0.678 |             |
|              | 18                           | 運動会では、要望や意見聴取のためのアンケートが実施されている | 0.652  | -0.060 | -0.003 | 0.378 |             |
|              | 15                           | 運動会では、無理やり参加させられることはない         | 0.604  | 0.122  | -0.079 | 0.417 |             |
|              | 24                           | 運動会の種目参加の登録やキャンセルは、簡単である       | 0.549  | -0.074 | 0.056  | 0.288 |             |
| 29           | 運動会では、不審者や関係者以外の立ち入りチェックしている | 0.385                          | 0.025  | 0.149  | 0.248  |       |             |
| 信頼性・スタッフ(F2) | 10                           | 運動会の係は、決められた役割を果たしている          | -0.071 | 0.783  | 0.011  | 0.556 | 0.826       |
|              | 11                           | 運動会の係の対応は、親切で丁寧である             | 0.094  | 0.717  | -0.056 | 0.561 |             |
|              | 8                            | 運動会では、記録や得点が正確に管理されている         | -0.057 | 0.622  | 0.080  | 0.401 |             |
|              | 12                           | 運動会の係は、会場での質問に対して適切に回答している     | 0.159  | 0.616  | -0.024 | 0.508 |             |
|              | 7                            | 運動会のプログラムは、タイムスケジュール通りに進んでいる   | -0.051 | 0.590  | 0.064  | 0.354 |             |
| 9            | 運動会の練習時間や内容は、適切である           | 0.094                          | 0.515  | 0.041  | 0.363  |       |             |
| 有形性(F3)      | 3                            | 更衣室・休憩室は、気兼ねなく使用できる広さである       | 0.152  | -0.099 | 0.730  | 0.587 | 0.745       |
|              | 2                            | トイレは、待ち時間なくスムーズに使える            | 0.025  | 0.002  | 0.712  | 0.529 |             |
|              | 1                            | 会場(運動場・体育館)は、参加・応援しやすい広さである    | -0.218 | 0.201  | 0.551  | 0.329 |             |
|              | 4                            | 運動会では、安全性の高い、新しい用品や用具を使用している   | 0.231  | 0.070  | 0.410  | 0.378 |             |
| 固有値          |                              |                                | 6.036  | 1.533  | 1.345  |       |             |
|              |                              |                                | 37.724 | 9.580  | 8.406  |       |             |
| 累積寄与率(%)     |                              |                                | 37.724 | 47.304 | 55.710 |       |             |
| 因子間          | 応答性(F1)                      |                                | -      | 0.624  | 0.531  |       |             |
| 相関           | 信頼性・スタッフ(F2)                 |                                |        | -      | 0.539  |       |             |
| 行列           | 有形性(F3)                      |                                |        |        | -      |       |             |

注: 網掛け: 因子負荷量 $\geq 0.350$

第2因子6項目は、「参加者に対する係の対応」3項目、タイムスケジュール、記録や得点の管理、練習時間や内容への「信頼性」3項目からなり、「信頼性・スタッフ」因子と命名した。

第3因子4項目は、会場、トイレ、更衣室・休憩室のハード面、用品用具への安全に関する項目からなり、「有形性」因子と命名した。

図2は、領域別のサービス品質評価の特徴を明らかにするために、得られた因子得点を用いて、学校・地域・企業を比較した。分析は一元配置分散分析を行い、分散の同質性を確認した後、TukeyのHSD法を用いて多重比較検定を行った。

「学校」は全ての項目で最も低い結果を示した。「地域」や「企業」に比べて、特に「反応性」因子が低く、意見や要望、参加形態、安全性の満足度が低い結果を示した( $F=3.66, p<0.05$ )。特徴的であったのは、「企業」で因子得点が全般的に高い結果を示した。特に、「有形性」因子は、参加者に対するハード面への配慮と考えられる( $F=7.519, p<0.001$ )。

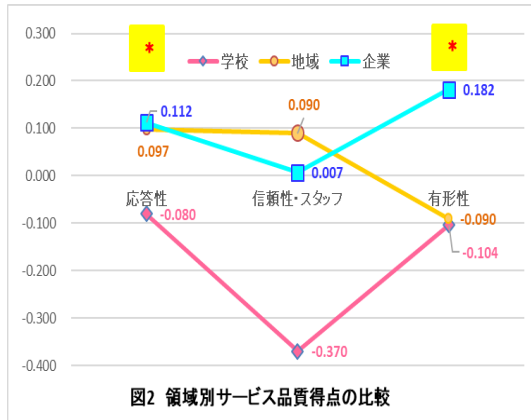


図2 領域別サービス品質得点の比較

#### サービス品質からの改善戦略の提示

図3は、各サービス属性の重要度と実施度を満足空間図にプロットしたものである。この図は運動会のサービス品質(全体)を示しており、サービスの維持・向上に関する対策を立てる上で、I/P分析の有効性が指摘されている。「不満足空間(左上)」にプロットされているのは、重要度が高く、実施度が低い項目であり、実施度を重要度レベルまで引き上げる戦略をとる。「満足度空間(右上)」は、重要度と実施度が共に高く、できるだけ維持する戦略をとる。「潜在的な不満足空間(左下)」は、重要度と実施度が低く、実施度を高めながら続けて重要度を高める戦略をとっていく。「潜在的満足空間(右下)」は、重要度が低いものの、実施度が高いレベルにあり、実施レベルまで重要度レベルを引き上げる戦略をとっていく。

運動会サービス品質(全体)で「不満足空間」にプロットされたのは、「立ち入りのチェック(SQ29)」「意見要望の言いやすさ(SQ16)」「意見や要望による改善(SQ17)」であり、実施度を高める改善が求められる。

「潜在的な不満足空間」には「更衣室・休憩室の広さ(Q3)」「新しい用品・用具(Q4)」「種目登録・キャンセルの簡単さ(SQ24)」「アンケートの実施(SQ18)」「強制的な参加(SQ15)」が示された。一方、「満足空間」には、第2因子の「信頼性・スタッフ」の項目及び「トイレのスムーズな利用(Q2)」であった。「潜在的満足空間」には、「会場の広さ(SQ1)」「練習時間や内容の適切さ(SQ9)」であった。

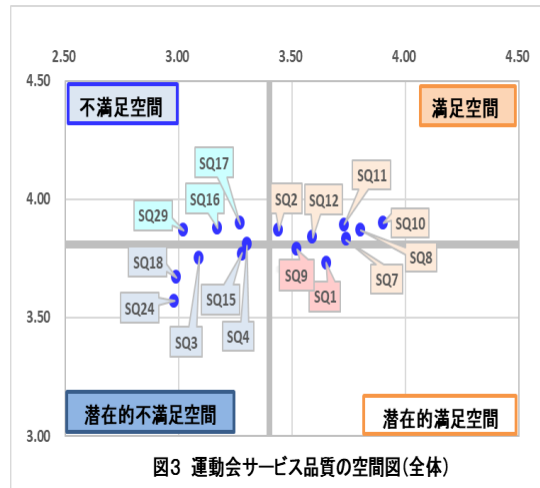


図3 運動会サービス品質の空間図(全体)

#### サービス品質向上の提案

(学校：小学校・中学校・高校)

図4は、運動会のサービス品質(学校全体)を示している。「学校」での「不満足空間」には、前述の全体記載のほか、「更衣室・休憩室の広さ(SQ3)」「新しい用品や用具(SQ4)」「トイレのスムーズな利用(SQ2)」がプロットされ、実施度を高める改善が求められる。

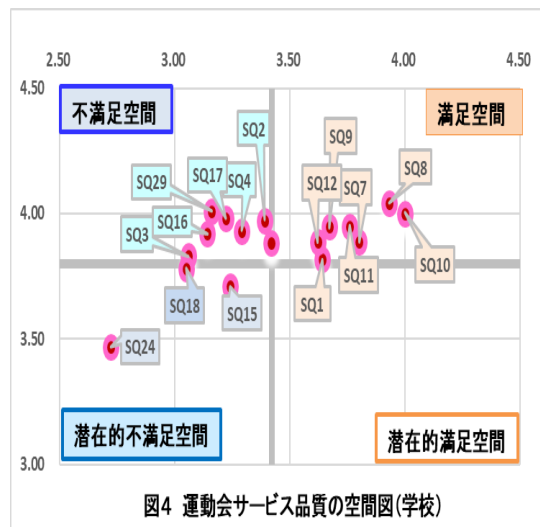


図4 運動会サービス品質の空間図(学校)

本報告では、校種の図は省略するが、校種間での「不満足空間」プロットの違いは、小学校が「更衣室・休憩室の広さ(SQ3)」「安全な用品・用具の使用(SQ4)」「練習時間や内容の適切さ(SQ9)」、中学校が「安全な用品・用具の使用(SQ4)」「練習時間や内容の適切さ(SQ9)」「要望や意見による改善(SQ17)」、高



校が「要望や意見による改善(SQ17)」であった。発達段階が高まるにつれて、「付帯施設や用具」から「プログラムの内容・練習時間(効率性)」へ、最終的には「要望や意見など参加者による主体的な改善」へと、求めるサービスが異なることが明らかとなった。

さらに、「潜在的な不満空間」には「強制的な参加(SQ15)」や「出場種目登録後のキャンセルの難しさ(SQ24)」に対して不満を抱いている参加者が多い結果を示した。加えて、児童生徒の意見や要望を聞き入れ、具体的な改善を図るための「アンケートの実施(SQ18)」がこれからの課題と考える。

#### (4)学校運動会の実践カリキュラム上の課題

各学校では、目標に基づいて、指導計画(目指す生徒の姿と評価方法)、日時、プログラムの検討、指導責任者の役割分担、児童生徒の役割分担(案)などの素案が検討される。

児童生徒は、以下の手順で活動が展開されており、本研究のアンケート結果から下線部2点の課題を提示する。

##### 事前

- ・運動会実行委員会の設置と実践目標の設定
- ・ブロックの編成と活動
- ・運動会運営計画の作成
- ・種目の練習
- ・リハーサルの実施

##### 当日

- ・プログラム
- 開会式
- 個人種目
- 団体種目
- 応援合戦
- 団体演技(発表プログラム)

##### リレー

#### 学校独自(伝統)種目 課題1

##### 閉会式

##### 事後

- ・振り返り(評価)
- クラス・ブロック
- 運動会実行委員会
- 運動会の運営上の課題(次年度に向けて)
- ・**アンケートの実施 課題2**

#### 課題1 児童・生徒提案による独自種目

全体(学校・企業・地域)では「運動会に独自(伝統)種目がある方が運動会を楽しみ」とする割合が高い傾向を示した( $\chi^2 = 13.908, p < 0.05$ )。学校独自種目(徳島市の阿波踊り、浜松市の城落とし、富山県立高岡高校の青年体操、私立六甲学院中学校・高等学校の総行進など)の実施は、観客や地域にも学校の魅力をアピールできると考える。各学校では、「運動会実行委員会」を中心に、児童・生徒が種目を考える場を提供し、児童生徒自らが「盛り上げ種目」を検討することも有効であると考えられる。

#### 課題2 サービス品質アンケートの実施

運動会サービス品質のアンケート結果から、「潜在的な不満空間」の中に、児童生徒の意見や要望を聞き入れ、具体的な改善を図るための「アンケートの未実施」に対して潜在的な不満を抱く生徒が多いことが明らかとなった。

下記、「学校運動会サービス品質に関するアンケート(web版)」を参考に、児童生徒を対象に事後のアンケート調査を実施しながら、クオリティを高めることが重要となる。

時代とともに、今なお引き継がれている運動会に、現在、求められているのは「運動会に対する固定観念(全員参加種目・登録種目への参加)」の払拭にあると考える。一度に大きな方向転換をするのではなく、経営主体が「参加者の意見を聴衆すること」からはじめ、運営上の課題を自分たちの力で解決できるような場につながるイベントに向けて、工夫が必要となる。

| 「学校運動会」サービス品質に関するアンケート (Web版)  |        |             |          |            |   |
|--|--------|-------------|----------|------------|---|
| あなたは、今年度の「学校運動会」で以下の17項目についてどのように評価できますか。それぞれの項目について、あてはまる数字1つずつお選びください。 |        |             |          |            |   |
| 5.とてもそう思う  | 4.そう思う | 3.どちらとも言えない | 2.そう思わない | 1.全くそう思わない |   |
| 1.会場(運動場・体育館)は、参加・応援しやすい広さである  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 2.トイレは、待ち時間なくスムーズに使える  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 3.更衣室・休憩室は、気兼ねなく使用できる広さである   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 4.運動会では、安全性の高い、新しい用品や用具を使用している   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 7.運動会のプログラムは、タイムスケジュール通りに進んでいる   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 8.運動会では、記録や得点が正確に管理されている   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 9.運動会の練習時間や内容は、適切である   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 10.運動会の係は、決められた役割を果たしている   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 11.運動会の係の対応は、親切で丁寧である  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 12.運動会の係は、会場での質問に対して適格に回答している  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 15.運動会では、無理やり参加させられることはない  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 16.運動会に対する要望や意見は言いやすい  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 17.運動会は、児童・生徒の要望や意見を聞き、改善している  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 18.運動会では、アンケートが実施されている   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 24.運動会の種目参加の登録やキャンセルは、簡単である  | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| 29.運動会では、立ち入りをチェックしている   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| [全体]あなたは、本年度の運動会に満足していますか。   | 5      | 4           | 3        | 2          | 1 |
| ※番号は、アンケート(原本)の番号である。  |        |             |          |            |   |

#### 引用・参考文献

- ・原久子・藤本淳也・住田健(2009)スポーツイベントのサービスクオリティ評価に関する研究 湘南オープンウォータースイミング2008に着目して .大阪体育大学紀要、41:135-143.
- ・中西純司(2010)民間スポーツフィットネスクラブ経営における顧客苦情マネジメント分析 .体育・スポーツ経営学研究、24:1-23.

- ・倉本哲男(2005)特別活動におけるカリキュラムマネジメントの研究～「運動会」を通じた「学校改善」・「学校づくり」の実践事例研究～ 教育経営学研究紀要、8:11-17.
- ・山本昭二(1999)サービス・クオリティ サービス品質の評価過程 . 千倉書房、pp.61-64 .

## 5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計2件)

藤谷かおる(2017)学校・地域・民間企業の運動会に対する参加意識とサービスクオリティ評価、日本体育学会第68回大会、164頁 .

藤谷かおる(2016)学校運動会(体育祭)のサービスクオリティ評価、日本体育学会第67回大会、192頁 .

〔その他〕

ホームページ等

<http://sm-fujitani.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

## 6 . 研究組織

(1)研究代表者

藤谷 かおる (Fujitani Kaoru)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：60257079